

令和6年2月28日

富良野市議会議長 渋谷正文様

富良野市議会議員 佐藤秀靖
外5名

議員の派遣に関する報告書

このたび議員派遣の承認を受け、その結果を下記のとおり報告します。

記

- 1 富良野沿線市町村議会議員研修会
 - (1) 目的 議会活性化及び議員の資質向上に資するため
 - (2) 派遣場所 富良野市
 - (3) 期間 令和5年12月21日
 - (4) 派遣議員 富良野市議会議員11名
 - (5) 派遣内容 別紙のとおり

1. 派遣内容

富良野沿線市町村議会議員研修会

講演・演題 議員のなり手不足問題への取り組み なり手を育てる

・講師 登別市議会議長 辻 弘之 氏

2. 所 感

令和5年4月23日に執行された統一地方選挙は、富良野市をはじめ、旭川市や名寄市など27の市議会議員選挙のほか、南富良野町や占冠村など100の町村議会議員選挙が執行され、このうち4割に当たる54市町村で「無投票」、11町村で候補者が定員に満たず「定員割れ」となり、議員のなり手不足が深刻化している。

そうした中、昨年10月に北九州市で開催された全国市議会議長会研究フォーラムにおいて、「議員のなり手不足問題への取組報告」をテーマとした課題討議でパネリストを務めた、登別市議会議長の辻弘之氏より「議員のなり手不足問題への取り組み なり手を育てる」と題して、富良野沿線市町村議員に対して講演がなされた。

辻議長は京都府に生まれ、大学進学を機に北海道に移り住み、登別市内の医療法人に就職し、社会福祉士や精神保健福祉士などの資格を生かして働くさなか、結婚と育児を経験し、子供たちやまちの未来に思いを馳せ、2007年に26歳の若さで登別市議会議員に立候補し初当選を果たす。2021年には道内最年少の40歳で登別市議会議長に就任し、この間、道内で初めて議会事務局職員による政策提案制度を設けたほか、妊娠や子育て、障がいのある議員などに配慮するため、オンラインによる委員会出席を可能とする議会改革にも積極的に取り組み、早稲田大学マニフェスト研究所による議会改革度調査2022において、登別市を初の全国1位に導いた。また、令和5年12月の定例会では、議員1名がオンラインで一般質問を行うなど、先進的な取組は多くの議会から注目されている。

その一方、2019年の統一地方選で立候補者が定数に満たない「定数割れ」が全国最多の4町村議選で発生した北海道に危機感を抱き、2022年4月に地方議員有志とともに地方議会選挙に立候補する人を増やすため「地方議員養成講座」を開講し、札幌を拠点に自治体の首長や大学の教授、企業経営者などを招聘し、さまざまな視点から人材育成に取り組み、公務員や会社員など受講者50名のうち、2023年の統一地方選挙に30人が立候補し、20名が当選を果たしている。

辻議長は、こうした活動を振り返り、既成概念や自分の価値観にとらわれることなく、なり手不足の要因を改めて考える必要があり、議員自ら、

まちづくりに強い思いを抱く人材を育てていくことが重要であると述べられた。

富良野市においても、議員のなり手不足は喫緊の課題であって、二元代表制の一翼を担う機関として、市民から地域課題の解決に役に立つ存在であると認知されるよう努力を重ねながら、私たち議員の責務として、議員のなり手不足の問題に取り組んでいかなければならないことを学ばせていただいた。

※「辻」の「しん」(しんによ)は点が一つです。